

大草谷津田生きものの里 自然観察会

バッタとカマキリ

晝間初枝（四街道市）

日 時：2015年10月4日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：24名（大人 14名 子ども 10名）

担当指導員：田島正子 晝間初枝

絶好の観察会日和。テーマはバッタとカマキリ。初めにそれぞれの虫の特徴を聞いて虫の名前を当てるゲームをした。途中でわかってもらっても絶対言わない約束をし、ヒントを全部聞いた所で「私はだれでしょう？」と投げかけた。子供達から「バッタ！」「カマキリ！」と元気な声が返ってきたところで、注意事項を確認して出発した。

入口の植え込みにいたオオカマキリは産卵間際。大きなお腹に驚きの声上がる。近くを見ると真新しい卵鞘が……。虫を見つける子供達の目がいいことに感心していると、コカマキリを発見。そこで大草で見ることができる4種類のカマキリについて説明した。どれも三角形の顔と大きな眼、鎌のような前脚など怖そうだけど興味をそそる。カマキリを見つけようと期待が高まったところで再スタート！

杉林を抜けて谷津に出たところでコカマキリを立て続けに発見。落ち葉や枯れ枝に混じっているのを見つけるのが早い。もう一度、大きさや脚の斑点、見つけた場所を確認した。地面ばかり見ていたところ、ふと見上げた木の幹でアオマツムシ(♀)を見つけた。触角が長いことからコオロギの仲間であることがわかった。外国から来た虫がいつの間にか日本の生活に溶け込んで今ではすっかり樹上で鳴く虫の主役の座を射止めたことにみなさん納得した。

田んぼへ下りると、コバネイナゴやオンブバッタがおもしろいように飛び跳ねて、その多さに驚いた。捕えることもすっかり上手になって、少しの間バッタ採りを楽しんだ。

驚いたことにここでのカマキリはみんなチョウセンカマキリ、前脚の間の鮮やかな朱色、翅も透き通るように薄い。オオカマキリとチョウセンカマキリ、コカマキリそれぞれに居場所の違いがはっきりわかった。時折、飛び出してくるニホンアカガエル、はぎ掛けにとまるアキアカネ、谷津の田んぼはすっかり秋、楽しそうに虫とりをする子供達、心が和む秋の情景が一带に広がっていた。

小休憩をとった後は、草バッタを使ってカモフラージュのゲームを行った。10メートル程の草むらに褐色と緑色の草バッタを置き、その間をゆっくり歩きながら、草や小枝にまぎれた草バッタをみんなで探した。草バッタは半分も見つけられなかったことから「どうして見つからなかったの？」と聞くと保護色という難しい言葉も返ってきた。最後に全員で見つからなかったバッタを探しゲームを終えた。

バッタやカマキリを予想以上にたくさん見つけ、参加者全員、虫とのふれ合いを思う存分楽しむことができました。

